動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話｜（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.4.21 No. 3017

超低額回答、会社間格差を許すな！

新小岩・佐倉で29名が第二波ストに決起

四月十七日、新小岩支部は、佐倉、営業の仲間とともに春闘第二波ストを闘いぬいた。

四月十四日、JR各社から提示された超低額回答、会社間賃金格差を断じて許さず、決戦を迎えている清算事業団闘争、反合・運転保安確立の本格的闘いに決起することをこのストライキを通して決意したのである。

新小岩支部のスト決起は、一週間前にスト指令が降りた時から始まった。スト対象になった組合員をはじめ、当日の明け、公休の組合員を中心にオルグを展開した。今のJRの不当な攻撃、春闘情勢の討論になるとスト方針は組合員に砂にしみる水のように受け入れられていった。

いよいよスト当日、青年部を先頭に、早朝から権力の介入を許さないためのパトロール、昼食の炊き出し、横断幕づくりなどを当局を圧倒して貫徹する。

十六時八分、新小岩支部十一名がストに突入。各支部からスト激励のために集まった組合員とともに一五〇名のスト突入集会を開催。営業協議会指名スト三名も合流する。

スト当該組合員を代表し、新小岩の武井さん「貨物の格差、差別を許さない。いま本当にたたかう者は動労総連合・動労千葉だ。ストを軸に闘おう」小岩駅関君「清算事業団、強制配転の仲間の原職奪還にむけ今後も闘いぬく」と決意を述べる。最後に関支部長の音頭でガンバローを行い、ストライキは敢然と打ち抜かれた。

新小岩地区拠点

14名がストに、150名で圧倒的な集会

スト参加者を紹介する関支部長（新小岩）

佐倉地区拠点

15名（機関区13・駅2）がストに突入、集会を開催

佐倉地区拠点第二波ストライキは、鉄道労連の片仕切りを弾劾し、四月十七日十六時すぎ、佐倉機関区で総決起集会をかちとりつつうちぬかれた。

佐倉支部は、八一・三ジェット闘争以来のひさびさのスト拠点となった。しかも、貨物職場で、検修・事務といった今までスト対象にしてこなかった職種がストに入ることになった。しかし、二年続けての東日本との賃金格差や乗車証など客貨の間の不平等に対する怒りが、ストライキをうちぬく力となった。又、佐倉駅に強制配転された銚子支部の二名の仲間は強制配転への怒りをバネにたちあがった。

総決起集会は、組合員・家族八五名の参加のもと、はじめにスト当該の佐倉・銚子両支部長よりあいさつをうけた。つづいて、本部を代表して水野副委員長より、この間の動労千葉のたたかいとストライキの意義などについて報告をうけ、全体の拍手で確認した。

動労水戸、動労西日本などの機電・メッセージを紹介した後、スト参加者が決意表明に立った。佐倉支部を代表した田中龍美副支部長は「賃金格差を許さずストでたたかいぬく」と決意を明らかにし、銚子支部の椎名勲君と鈴木真司君は「不当な強制配転は許せない」と怒りをこめて決意をのべた。

その後、結集している千葉転・木更津・清算事業団各支部の代表と家族会林会長よりあいさつをうけた。林事業団支部長は「事業団闘争も正念場をむかえている。組織の総力でたたかいぬこう」と訴えた。

最後に、宮内佐倉支部長の団結ガンバローで総決起集会は大成功のうちにかちとった。

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年！